



詩集

# いのちの風

〜癒しの旅路より〜

さやかミシユエルランド



## まえがき

ある日、私は未来の自分の臨終の場面に立ち会うという体験をしたのです。そう、時空を超えて確かに私はその場に居ました。温かい空気の流れを感じ、捧げられた花の香りを楽しみ、様々な心の囁きもよく聞こえてくるほどでした。

私の人生の最後と、厳かなセレモニーを見守る人々のその様子には思ったほどの悲惨さはなく、「ああ、これで良かったのだな」と、私にはすんなり受け入れられたのを覚えています。勿論、お別れは寂しいものですが、「分かっているよ、大丈夫だよ」と全ての人を包み込んでしまえるほど私は大らかな気持ちで一杯だったのです。

その未来がいつ訪れるのか、おおよその年齢は分かりますが、これは私だけのささやかな秘密とさせていただきます。それがあっても無くても「今を生きる」、それに変わりはありません。今まで通り、私という人間とお付き合い頂けたら幸いです。

自己紹介が遅くなりました。私はスピリチュアルメッセンジャーのさやかミシユエルラントと申します。「目に見える世界」と「目には見えない世界」の橋渡しと、皆さまの魂の

成長のお手伝いをさせていただいております。

「人は生き方を選択する」

これは活動当初から一貫してお伝えしていることです。自己否定や無力感からくるあらゆる恐れは、人生の選択肢を極端に狭めてしまいます。何故、恐れが生まれたのか。何故、そのアイディアを受け入れているのか。何故、その現実を引き寄せることになったのか。スピリチュアルはそんな心の探究と共に、その人の霊性を高め、人生を発展に導きます。

私は日々、様々な方に出会います。人生が膠着状態にあると感じている方や、外の世界に振り回されていると感じる方。本当は望みがあるのに自分にはこれしかないと言っている方。一見、明るく楽しそうに見えても心の渴きを隠しきれない方。

私はそんな方々へ、宇宙の法則や物事の霊的な意味をお伝えし、再選択をサポートさせていただいております。そして皆様が本来の自分らしさを取り戻し、その才能を発揮して大きな宇宙の一員として活躍する様子を、私は喜びと共に見守っています。

さて、先程のお話に戻りますが、実は私の葬儀会場には数冊の本が置かれていました。その本を参列者が自由に手に取って、各々に思い出話をしたり、静かに故人との心の交流をしている様子でした。それが間違いなく「さやかミシユエルランド」の著書だと確認してこの現実世界に戻ってきた際に、私はついにその運命を受け入れました。その本が残された人々の心の癒しとなり、これから行く先の、魂の道しるべとなっている様子を目撃したからです。

私は人生はジェットコースターのような、起伏に富んだ人生を歩んできましたので、周からは本を書けばいいと勧められる事も何度かありました。人間臭い話も、霊的体験も様々です。しかし実際、何か作品を残そうと思った時に心の奥底から湧いて出てくる言葉は、これまでの個人的な出来事よりもっと普遍的な「いのち」を表そうと試みるものでした。

今回ご縁があつて出版のお話を頂いた際に、この数年間で書き溜めていたものを詩集としてまとめることにしました。

この作品は内なる自分との対話という形で作品が並べられています。自分とは何者か。自分を見つめるもう一人の自分。自分とは思えない崇高な自分。現実を生きる自分。理想の自分。やがてそれらが統合されて、スピリチュアルを具現化する霊的存在として動き出します。

今、様々な葛藤や混乱の中にあって何か道を見出したい方には是非読んで頂きたいと思います。全ての出来事は、その学びのプロセスであったことに気が付くかもしれません。

詩はとても自由で幅広い解釈ができます。皆様それぞれ、今の心でどうぞ読み解いてください。また、ポジティブ側からもネガティブ側からも、視点を変えると見える世界もガラリと変わるでしょう。

この作品から「人生を創造する」というスピリチュアルの原点に触れていただけたら幸いです。皆さまの豊かで実りある人生をお祈りいたします。



子供の頃

このため息が巡り巡って

遠く地球の裏側の国の

誰かの背中を押す風になることくらい

知っていた

私は知っていたのだ

それが願うものでも 祈るものでもなく

ただ

そうなるものだという事を

